小児在宅医療で連携　東海３県合同、初の研究会

岐阜新聞ＷＥＢ　2015 年 03 月 11 日

http://www.gifu-np.co.jp/news/kennai/20150311/201503110856_24492.shtml

＞　東海三県小児在宅医療研究会が、岐阜市橋本町のじゅうろくプラザであり、在宅生活を送る重症心身障害児者の支援関係者が講演やシンポジウムを通じて取り組みのノウハウを共有した。

岐阜、愛知、三重県などが３県の医療、看護、福祉、教育、行政関係者の連携できる関係をつくり、支援体制を充実させようと初めて開き、保護者を含め約３８０人が訪れた。

重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎（川崎市）の江川文誠施設長が「生きてゆく訳と方法―医療と福祉と教育を同時に必要とする子どもたちのこと」と題して講演。保育士が医療的ケアに対応し、障害児が健常児と一緒に生活を送る保育園など神奈川県内の先進的な実践を紹介。「家族は使命感や愛情に富んだ実践を試みる人に囲まれ、将来の可能性と夢を抱くことができる」と述べ、共生に向けた社会の意識を高める必要性を説いた。

◆支援充実へ活動報告

各県担当者が重症心身障害児者の支援施策を紹介した後、在宅医療や訪問リハビリ、デイサービスなどを行う医師や理学療法士、ＮＰＯ法人代表らが取り組みを発表、討論も行った。

長男（３２）が超重症心身障害者で、岐阜市内の生活介護事業所事務長の市橋美保子さん（５８）は家族の立場から歩みを振り返り、「(長男が) 人工呼吸器を付けたとき、担当看護師から『手を抜けるところは抜き、夜はできるだけ寝てね』と言われ、優しく包んでもらえた気がして心が温かくなった」と話した。

…などと伝えています。

在宅生活を送る重症心身障害児者の支援について意見交換する関係者＝岐阜市橋本町、じゅうろくプラザ